

人工軽石 4社で組合 総事務局認可 トリム会長が代表

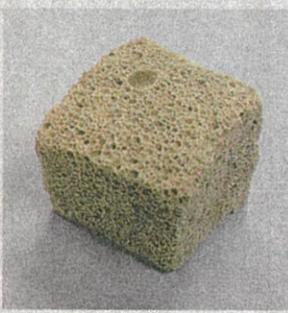
廃ガラスから作る人工軽石(製品名「スーパーソル」)の製造を手掛ける県内外の4社が6月、「ガラス発泡資材事業協同組合」を立ち上げる。土木などの資材として近年増えている大口の注文に応えられる生

産体制を整えるのが狙い。沖縄総合事務局が13日、設立認可書を交付した。6月上旬までに登記を済ませ、同月中に組合員を11事業者に増やす。組合を立ち上げる4社は、全国15カ所にスーパーソルの製造工場を設け、生産の技術指導をしているトリム(那覇市)のほか、こっこー(広島県呉市)、ソルク(茨城県笠間市)、岸本国際技術研究所



設立認可書交付式

沖縄総合事務局の牧野守邦経済産業部長(後列左から2人目)から認可書を受け取ったトリムの新城博会長(前列中央)。13日、那覇市の沖縄総合事務局



廃ガラスの粉に熱を加えて作った人工軽石「スーパーソル」

(神奈川県藤沢市)。県内企業が全国レベルの組合を設立するのは初。組合の代表理事はトリムの新城博会長が務める。事務所はトリムの生産工場がある八重瀬町新城に置く。組合では、スーパーソルの大口注文を事務局で受け付け、組合員の生産能力に応じて発注する。販売額は1立方が当たり1万6500円を予定している。

スーパーソルは、廃棄されたガラス瓶を再利用しようとするトリムが1999年に生産を始めた新素材。水に浮くか沈むか、吸水するかしないかを自在に設定できる。軽いため、道路の下の埋設管を痛めずに舗装したり、擁壁の裏に詰めて擁壁の厚みを減らしたりできる。水に沈むタイプにすれば岸壁素材となり、土壌や地盤の改良にも役立つ。災害復旧事業も含め、全国各地から大口の注文が寄せられているという。